

横浜支部

第45回数学的な授業を創る会

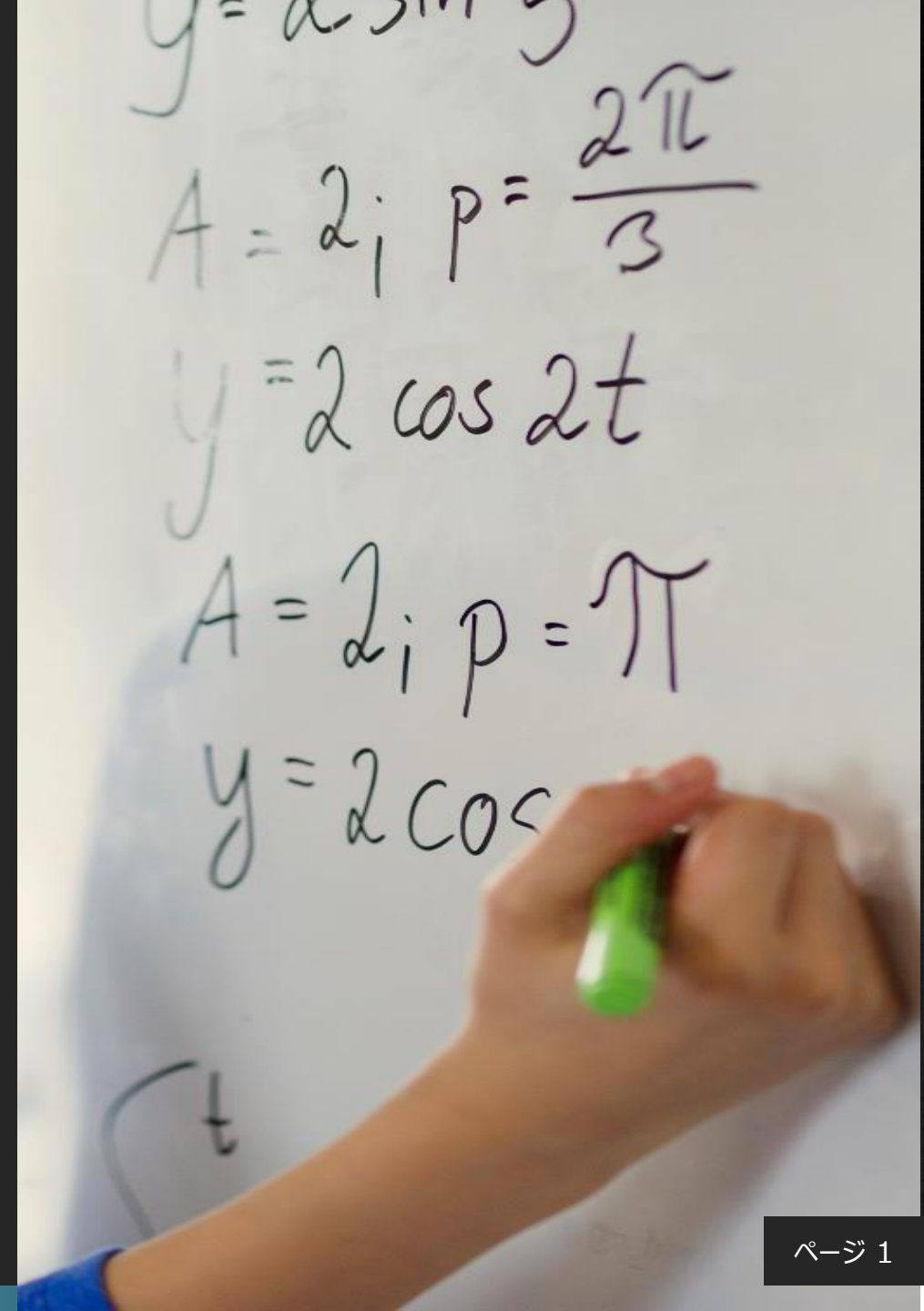
9月20日(土) 屏風浦小

いざ湯河原！
岡田プラン提案へ！

提案者
岡田秀亮

提案単元

比例





提案の主張 「比例を事象として捉える」力を伸ばし、 問題解決の精度を高める。

湯河原セミナー 研究テーマ

次期教育課程への提言
～ 次代の算数授業の具体を描く ～

WHY



「C変化と関係」が新設された意図として、①関数の考えを問題解決に生かす力を伸ばす。②中学の「関数」の領域に円滑に接続する。という点から、
○「関数の考え」のよさは身の回りの事象の規則性を見抜くことで事象を単純化して数学的に捉えることであり、問題場面の構造をより、簡潔・明瞭・的確に捉えて発展的に考察できる。
ここに価値がある。

WHAT

○比例の事象には3種類あって、その内の「帰納的な法則として、比例関係が導かれる場合」が小学校ではほとんど扱われていない。この場面を扱うことで関数の考えを問題解決に生かす力を伸ばす。

○表・式・グラフが唐突に出てくることがないように、表・式・グラフを根拠に比例関係と見ることができるか判断できるようにする。

HOW

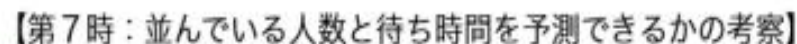


○これまで働かせてきた見方・考え方を生かせる学びの文脈を描いていく。
比例として事象を捉え、未来予測ができるような、比例という見方・考え方を使った新たな扉を開き、面白さを味わうことができるようにする。
そして見方・考え方の成長を実感できるように単元をリデザインする。

3 番目のスキル

1 番目のスキル

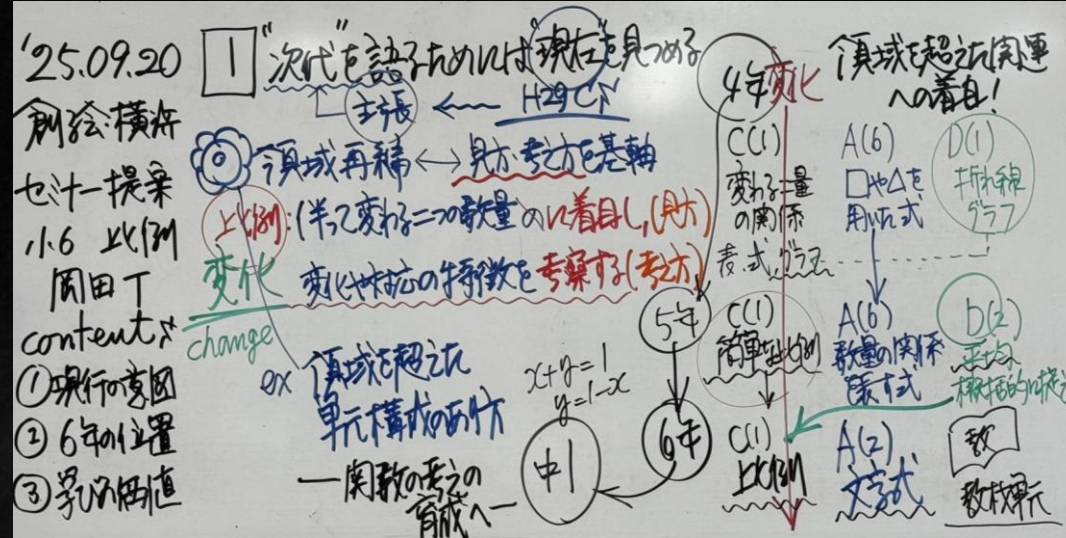
2 番目のスキル



ページ 3



なぜその提案を
するのか、
課題は何か、
自信をもって
岡田プランとして
提案できるように。



次代を語るためには今を見つめる
関数の考えの育成のためには、
領域を超えた単元構成を。
4年生であれば、伴って変わる
2量の関係の単元（C領域）
だけでなく、折れ線グラフ
（D領域）、□を使った式
（A領域）にも、比例に関わ
る見方・考え方が内在している。

関数の考えで生活が変わるか

色々な比例の活用場面を扱うよりも、
中心教材をもとに、関数の考えを
使って解決できるような展開を。

例

ラーメン屋の待ち時間を考えるなら

個々の食べる時間、席の数、待っ
ている人の数など様々な観点を基に関
数の考えを使ってどう解決していくか、
効率的予測を立てることができる子
どもの育成を。

